

2026 年 3 月期決算 会社説明会（2026 年 5 月 28 日開催）における主な質疑応答

登壇者：代表取締役社長 CEO 椋梨 敬介、執行役員 企画統括本部長 古堂 達也、執行役員 市場事業本部長 奥田 健一郎

No.	質問内容	回答
1	今後、政策金利が中計の当初想定を上回り、利益が上振れた場合の利益増加分について、成長投資への再配分、有価証券ポートフォリオのさらなる改善、あるいは利益としての取り込みなど、利益配分の考え方を教えてほしい。 また、利益として取り込む場合、インオーガニック投資および株主還元をどのように考えているか示してほしい。	(回答者：椋梨) ・基本的には状況に応じて判断する。 ・有価証券ポートフォリオの改善を通じた収益力の構造的強化という選択肢についても、臨機応変に検討していく。 ・仮に利益として取り込む場合は、中計における一貫した方針に基づき、「成長投資」を最優先とし、次いで「株主還元」に充当することを基本とする。両者はバランスを意識しつつ実施する。特に、ROE の向上につながる成長投資には優先的に充当していく。
2	円債のデュレーションについて、今年度 1 年間で約 0.6 年短縮する見込みとのことだが、この水準であれば大きな入れ替えを行わなくとも達成できると考えてよいか。 また、今後円債の入れ替えを行う場合、基本的には株式や投信の売却益を活用するという理解でよいか。	(回答者：奥田) ・今年度の計画には、2026 年 3 月期に実施したような大規模な円債の入れ替えは織り込んでいないが、今後も株式の評価益の状況を見ながら継続実施していく予定である。 ・ただし、あくまで純投資の株式売却益等の範囲内で債券売却損を計上していく予定であり、純投資部門が経常利益の足を引っ張るようなことはないと考えている。 ・また、入れ替えは残存期間の長い債券から優先実施しており、デュレーション 0.6 年の短期化は最低ラインと位置づけ、さらなる短縮を図りたい。 [2026 年 3 月期 説明会資料 14 ページ参照]
3	中計で成長投資を掲げ、約 1 年が経過した。これまでの手応えを教えてください。	(回答者：椋梨) ・中計で示しているとおり、成長投資については引き続きチャンスがあれば積極的に実行していく方針である。 ・成長投資は、大きく 2 軸で考えている。1 つは、地域企業の経営課題解決に資する機能の強化。もう 1 つは規模の観点。規模がもたらす競争優位性の重要性が一段と高まっていることに加え、DX やサイバーセキュリティ等への投資効率を最大化する観点からも、必要な規模を確保する必要がある。 ・ただし、規模の拡大そのものが目的ではなく、外部環境が大きく変化する中にあっても、持続的な成長と競争優位の維持を本質的な目的と位置付け、これに基づき経営判断を行っていく。
4	資料 8 ページと 10 ページを比較すると、2026 年 3 月期は貸出金利息よりも預金利息の伸びが大きく、預貸関連では減益となっている。一方で、2027 年 3 月期は貸出金利息の改善が預金利息を大きく上回っているが、その構造について改めて教えてほしい。	(回答者：古堂) ・2026 年 3 月期においては、貸出金利息の増加を上回る水準で預金利息が増加した。もっとも、当該動向には預け金利息が含まれておらず、これを含めて評価すれば、金利上昇の影響自体は前期から着実に顕在化している。 ・一方で、金利上昇の影響は時間差を伴って顕在化している。その結果、2027 年 3 月期においては貸出金利息の伸びが一段と拡大し、預金利息の増加を上回る収益構造へと転じている。

2026 年 3 月期決算 会社説明会（2026 年 5 月 28 日開催）における主な質疑応答

No.	質問内容	回答
5	資料 24 ページの注力分野における貸出金が大きく伸びている中で、今後も貸出が伸びていく場合、現状の調達でカバーできるのか、見通しを教えてください。	<p>（回答者：棕梨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当社の預貸率は現在約 80％であり、資金需要は着実に高まってきている。 ・ 加えて、先ほどご説明したとおり、山口県が最終的に GX 戦略地域に選定された場合には、約 1.4 兆円規模の経済波及効果が見込まれており、今後大きな資金需要が見込まれる環境にある。[2026 年 3 月期 説明会資料 22 ページ参照] ・ 貸出金については、地域を支える重要な産業や産業転換に資する分野へ積極的に資金を振り向けていく方針を中計で掲げている。そのうえで、RORA を基準とした厳格な選別も行っていく。
6	銀行以外の子会社の整理はある程度終わったのか。	<p>（回答者：棕梨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私が社長に就任して以降、「選択と集中」をかなり進めてきたが、現時点ではまだ道半ばと認識している。 ・ 今後さらに経営効率を高めていくためにも、引き続き見直しを進めていく。
7	中計の重要施策の一つである YMFG グロースパートナーズの現状を教えてください。 銀行との協業を進めていくとのことだが、その進捗状況についても教えてください。	<p>（回答者：棕梨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ YMFG グロースパートナーズは、機能の異なるグループ子会社 4 社を 1 社に統合し、企業の経営課題に対してワンストップでソリューションを提供できる体制とした。 ・ 足元では複数案件が動いており、2026 年 3 月期は 2 社に対して投資を実行した。 ・ 2027 年 3 月期は銀行との連動をさらに強化していく方針であり、各行の頭取にも対象企業の選定に関与してもらうなどの動きをしている。本気で取り組むという姿勢のもと、報酬とも連動させていく。 ・ 投資を通じて顧客企業の将来成長に対し、グループ一体となりコミットして取り組む方針。

以上